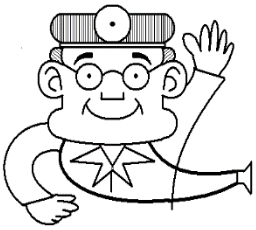
第 194 回　“いのち”を考える会　報告



―聴覚障害者の医療を考える会―

2024 年 2 月 29 日（木）18 時 30 分～20 時 30 分
神戸市障害者福祉センター 会議室 C
参加 24 名（うち聴覚障害者 5 名）

テーマ：「50 歳過ぎると多くなる病気、
ヘルペス（帯状疱疹）を知ろう」
～その症状と予防接種～

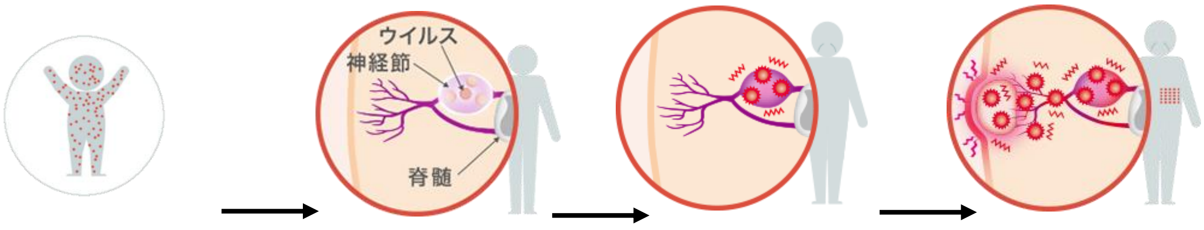
講師： 林（はやし） 宏明（ひろあき） 先生
（はやし皮ふ科クリニック院長 / 神戸市中央区）

子どものころに水ぼうそうにかかったことがある人は、帯状疱疹になる可能性があります。疲労やストレスが引き金となって発症し、ワクチンを打てば発症の可能性は低くなるということです。特に 80 歳以上で発症すると痛みの後遺症に悩むことが多いので、後遺症を防ぐためにもワクチンは有効だそうです。

参加されたろう者が、以前皮膚科で教えてもらった内容がわかりにくいので、改めて講師に問う、という場面がありました。学習内容の Q&A も含め、医師に直接質問できるのが、この“いのち”を考える会のいいところです。

●水痘（水ぼうそう）と帯状疱疹（ヘルペス）

帯状疱疹の原因は、多くの人が子どもの頃に感染する「水ぼうそう」と同じウイルス（水痘・帯状疱疹ウイルス）。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは背骨に近い神経に、症状を出さない状態で潜んでいる。加齢や疲労、ストレスなどによって免疫機能が低下するとウイルスが再び目覚めて、帯状疱疹として発症する。つまり、水ぼうそうになったことのある人は、帯状疱疹になる可能性がある。



水ぼうそうにかかる → ウイルスが神経にひそむ → 免疫力低下によりウイルスが暴れだす → 帯状疱疹を発症する

●帯状疱疹の特徴

（初期）

<u>体の左右どちらか</u>の神経にそって、皮膚の痛みや違和感、かゆみが出現する。

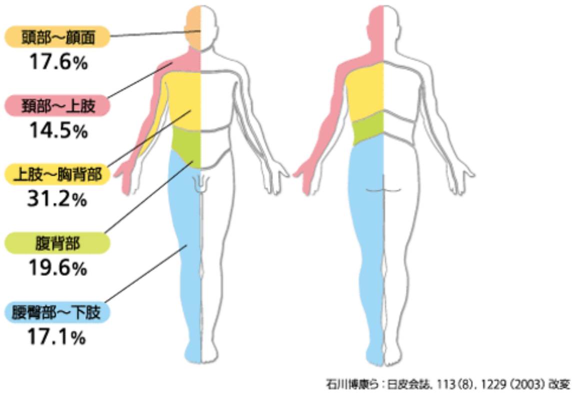
皮膚症状の数日前から 1 週間ほど前に生じることが多いが、皮膚症状と同時、あるいはやや遅れて生じることもある。

痛みは「ピリピリ」「ジンジン」「ズキズキ」「焼けつくような」と表現されることもあるが、程度はさまざま。

（発疹がでる）
　皮膚の痛みや違和感、かゆみなどが起こった場所に発疹がでる。胸や背中、腹部など多くは上半身に現れるが、顔面や目の周りにできることもある。ひどい痛みが原因で、眠れなかったり日常生活に支障をきたしたりする人もいる。
　発疹は、その後小さな水ぶくれに変化していく。水ぶくれは、初め数ミリくらいの小さなものが数個みられるだけだが、次第に数を増す。新しいものと古いものが混在し、帯状に分布する。このように水ぶくれ（疱疹とほぼ同じ意味）が帯状に集まって生じることから、「帯状疱疹」と呼ばれる。

（発疹がでた後）
　水ぶくれは、黒ずんだ色になることや膿がたまることもある。1週間ほどで破れ、その後かさぶたとなり、皮膚症状は3週間前後で治まるが、色素沈着や傷跡が残る場合もある。

●帯状疱疹が発症しやすい部位
　どこにでも発症する可能性がある



●神経痛
　皮膚症状が治ったあとも、神経痛が残ることがあり、帯状疱疹後神経痛（PHN）という。PHN に移行した割合は 50 歳以上で約 2 割、80 歳以上では 32.9%。年齢があがるにつれて PHN になる割合が増えることがわかっている。
　できるだけ早く治療を開始することが、神経痛を残しにくくする。
　高齢で帯状疱疹にかかると、痛みの後遺症に悩むことが多い（しかし、発症年齢は 50 歳以上が 65.7%を占める）

●他人にうつるか？
　帯状疱疹ウイルスは、他の人に感染して帯状疱疹として発症させることはない。
しかし、水ぼうそう（水痘）にかかったことがない乳幼児や、水ぼうそうのワクチンを受けていない乳幼児には、感染して水ぼうそうを発症する可能性がある。

●顔や目に出た場合
　顔に発症した場合、頭痛、めまいや耳鳴りなどが起こることがある。また、目の合併症を発症する可能性があるので、帯状疱疹にかからないようにワクチンを受けることが推奨される。

●ワクチンは 2 種類ある
　◎乾燥弱毒生水痘ワクチン（生ワクチン）
　　対　　象：水痘および 50 歳以上の物に対する帯状疱疹の予防
　　接種回数：1 回
　　費　　用：7,000～10,000 円程度

※免疫不全状態にある方やステロイド使用中の方は接種できない（詳しくは医師に相談）

帯状疱疹発症率は 51.3%減少した
帯状疱疹後の痛み（PHN）の発症率は、1 回接種している人では、66.5%減少

⇒予防効果もあり、発症したとしてもその後の痛みの継続も減る

◎乾燥組換え帯状疱疹ワクチン（不活化ワクチン）

対　　象 : 50 歳以上の者又は帯状疱疹に罹患するリスクが高いと考えられる 18 歳以上の者
接種回数 : 2 回
費　　用 : 2 回で 40,000～60,000 円程度（自治体によっては費用の助成を受けられるところもある）

50 歳以上の方に対する発症予防の有効性は 97.2%
70 歳以上　　　　　　〃　　　　　　　89.8%

⇒効果が高いが、費用も高い

※生ワクチン
細菌やウイルスの病原性を弱めたものから作られているワクチン

※不活化ワクチン
細菌やウイルスの感染力をなくしたものや、細菌やウイルスを構成する成分の一部から作られているワクチン

●講演後の質疑応答より
（ろう者の質問）
Q. 帯状疱疹は食べ物の影響はあるのか？
A. 食べ物は全く関係ない。過労やストレス、風邪をひいたりすると発症することがある。

Q. 30 歳の頃に帯状疱疹になり、通院して点滴治療した。50 歳を過ぎてから帯状疱疹を繰り返しているが、帯状疱疹の痛みなのかどうかを判断するのが難しい。痛みがあるときに血液検査で判定することはできるのか？また、治療には点滴が良いのか？
A. 血液検査では帯状疱疹かどうかは判断できない。皮膚に湿疹ができて初めて、診断が可能になる。点滴と飲み薬の効果は同じ、ただし点滴は 1 日 3 回なので、通院で 1 日 1 回では効果が薄いといえる。

（聞こえる人の質問）
Q. 帯状疱疹ワクチンの 1 回目を打ったときに、副反応がひどかったので、2 回目を打つのを悩んでいる。副反応は打ってみないとわからない？
A. そのとおり。コロナワクチンと同じで、副反応の程度は打ってみないとわからない。

Q. 疲れると必ず口唇ヘルペスができるが、防ぐ方法はないのか？
A. 疲れたときに発症するのが口唇ヘルペスや帯状疱疹。ただし、帯状疱疹と口唇ヘルペスは全く別の病気。